

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本年度、分かりやすく、覚えやすい理念へ変更した。職員が理念を理解し、理念に基づいたサービスを提供できるよう実践中である。	理念は玄関とスタッフルームに掲示され、職員はいつでも確認や現状の振り返りを行なうことができる。また、利用契約時に家族等に渡す「重要事項説明書」にも法人の理念として掲載している。ホームでは管理者やユニットリーダー、職員がモチベーションを上げながら協働し理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には健康状態を考慮して、出来るだけ参加するよう心がけている。地区の敬老会に参加したり、ピアノやマジックなどのボランティアの方とも定期的な交流を図っている。	町会費を納め、運営推進会議を通し町会長から町の行事等の情報を得ている。町の文化祭には利用者と職員で作成した「壁画」を出品し、町主催の区敬老会にも出席している。高校生の職場実習も積極的に受け入れ、週5日、2週間にわたり利用者に接していただき貴重な経験をさせていただいている。その実習で利用者とも顔馴染みになり入社に到った職員もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアの啓発に努めている。人材育成貢献として、実習生、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、地域密着型のサービスとしての役割を果たしていきたい。平成23年12月運営推進会議で、地域との防災協定が締結されてから、地域との関わりがより深くなり、地区敬老会、文化祭等に誘っていただいている。委員から、地域に向けて認知症サポーター講座を開催してはどうかとアドバイスを受け前向きに検討している。	会議には利用者家族、地域代表者、知見を有する方、地域包括支援センター職員等の参加を得て偶数月の月末金曜日の午前中に開催している。特に地域代表者からは力強い支援をいただいております。ホームと住民との良き架け橋となっただけではない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度、市の相談員の来訪があり利用者と話をしている。認定更新の機会に市担当者へ利用者の暮らしぶりを具体的に伝え、連携を深めている。運営面で判断困難なときは相談に伺っている。	運営推進会議に市関係者の参加をいただき、ホームの現状を見聞きしていただく中で適確なアドバイスをいただけるようになっている。2名の介護相談員に毎月来訪していただいているので、今後、更にホームの運営に活かすためにもコミュニケーションを深めていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等を通じ職員間で確認し、厳守している。	玄関の施錠はしていない。日々の安否確認は時間を決め6回ほど行い、職員は常に利用者の状態を把握している。現在、リスク回避のためセンサーマットを使用する方が数名いるが、家族等と十分話し合い、できるだけ使用しないで済むような方向で検討を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、またミーティングを通じ職員間で確認し厳守している。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者は機会あるごとに研修等に参加して知識を得ている。現在、1人制度を利用している方がいてその法人と連絡を密にとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとって説明している。利用料金、起こりうるリスク、看取りについてなど当事業所の考え、ケアに関する取り組みについても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情設置箱を玄関フロアに置いている。家族の意見を聞き、苦情を受けたときは、発生原因を探り、検討して改善に向けている。職員会議で報告を聞き、意識を高めている。	ほとんどの利用者が自身の思いを表出することができる。思いを伝えることが困難な利用者については身振りや手振りで伝えられた事柄を健康管理ノートやアセスメントシートに記載しつつ、職員全員で総合的に判断し利用者一人ひとりの理解につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回、また、勉強会を適時開き、意見を聞いている。日ごろからコミュニケーションを図り、聞く機会を設けている。	職員は朝・夕の申し送りやミーティング、2ユニット合同の職員会議時に仕事上の困りごとや思いを伝えている。代表者との個人面談が年1回行なわれ、現場の声が直接届いている。管理者は独自にホームの年間報告を取りまとめ運営会社に提出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も月1回の職員会議や、適時開く責任者会議に参加を心がけている。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意思を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修になるべく多くの職員が受講できるようにして、それらの研修報告をミーティング等にて伝達講習をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区の事業所と交流を持ち、認知症研究会や夏祭り行事の案内を頂き参加させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家庭や施設に訪問面談を行い、ご本人様、ご家族様の思いや生活状況を把握し、入居時には安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームでは、どのような対応が出来るのか事前に話し合いをしている。ご家族の立場に立ち、話をしっかり受け止めながら関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前相談では、必ずご本人にとってグループホームでの生活やケアが最善であるのか慎重に見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするという共有の意識の中で、人として先輩を敬い、生活の中で楽しみや生きがいを感じていただけるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご利用者様を自分の家族と同じように思っていることを伝え、ここでの生活をより良いものにするよう話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との絆を実感していただくため、定期的な面会や、外出、外泊などを家族と相談しセッティングしている。また馴染みの場所などは外出の際訪れるようにしている。	利用者の高齢化もあり手紙を書くことが困難になってきているが、レクリエーションで作成した壁画を職員がポストカードに加工して、利用者が家族へ便りとして出したこともある。また、職員の買い物時に利用者も一緒に出かけ馴染みの店で買い物をしたり、行きつけの美容院に出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に助け合い、喜び悲しみを分かち合えるよう支援している。時に応じて利用者の中に入り繋ぎの役目をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方にも、その後の様子を聞いたり、ご家族の話を聞いて相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で、話を聞いたり、積極的に話しかけている。また、あまり話したくない利用者様には、ご家族から話を聞いて把握しようと努めている。	楽しみごとや役割りの場面では本人本位に検討し、職員は利用者が生き生きと生活出来るように支援している。日々、寄り添うケアの中から把握した利用者一人ひとりの思いを記録し、それを参考に支援することでホームでの安心した暮らしに結びつけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中で、ご本人様、ご家族に聞いて把握に努めている。また、入所後も日々の会話の中からヒントを得られるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの生活リズムを理解し、行動や小さな動作、表情などから読み取れるよう心がけている。生活を共にする中で、心身の状態や出来ること出来ないことを察知するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンス、アセスメントを経て、ケアプランの作成、変更を行っている。3ヶ月に1度ご家族様のは密に連絡し、意見を聞き参考にしている。	各ユニットごとにケース検討会議を開き、計画作成担当者が見直しをし計画の継続や変更をかけている。利用者の担当制をとっているが、他職員からの気づきも十分に取り入れ、現状に合わせたサービス内容にし全職員で日々支援に当たっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングの中で、記録、情報の共有を行い、細やかな修正を行っている。また、入社時には記録や連絡ノートを確認し、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族の状況に応じ、通院支援や、外出(買い物等)を行っている。2F/3Fの職員が、その時々によって協力し合い、ご利用者に対応している。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方たちによる、ピアノとソプラノコンサートやマジックショー、カラオケコンサートなどに来ていただき、日々職員の足りない部分を支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医には、月1回の往診をお願いしております。体調不良の時は、訪問看護に相談後、かかりつけ医に受信している。その後、家族に連絡を取っている。	利用前からのかかりつけ医に2週間に一度、往診をしていただいている利用者もいる。また、歯科に関しても往診をしていただいている。看護師は常駐していないが、24時間体制での訪問看護の支援がある。緊急時の対応も管理者が全て内容を把握できるシステムとなっており情報の共有化も図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と医療連携をとり、週1回の定期訪問の他、24時間体制をとり、訪問の際には各利用者の健康管理、適切な医療サービスが受けられるよう支援している。また職員と看護師が緊密に相談できる関係は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院したときは、面会を重ね、病院の相談員とも連携をとり情報の交換に努めている。家族とも連絡を密に連携し支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本年度も家族会で終末期を迎えた時のことについて話し合いをした。契約時、当施設の重度化した場合と終末期について説明はしているが、話し合いの会を重ねて、方針を明確にしていきたい。また、医療との連携、環境整備、職員の死生観などを培っていきたい。	重度化に伴い医療行為が必要となった時点で利用者や家族との話し合いを持ち、住み替え等も視野に入れ職員会議においても検討が加えられホームとしての取り組み方を決めている。終末期に直面した場合には家族や医師との十分な話し合いのもと可能な限りの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、夜間時の緊急対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年7月に火災訓練をした。平成23年12月運営推進会議において、地域と防災協定の締結を結ぶことが出来た。地域との協力体制を築けている。	市の防災無線を一早く正確に聞くため、2階事務室にスピーカーを取り付けた。ホームとして夜間避難訓練の経験はないが、下見と経験のためにケアマネージャーが近隣施設に体験に向いた。備蓄倉庫は1階にあり寒暖の差を受けにくい作りで広いスペースもあり、地区関係者から地区防災用品の保管場所に使用して欲しいとの要望も出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者それぞれの性格や個性に合わせ、プライドやプライバシーを損ねることがないようにミーティングや職員会議で話し合い確認している。	個人情報保護等の研修会に出向いた職員から報告を受け、他の職員も情報を共有化している。利用者の人格の尊重に関して、利用者に対する職員の言動が不適切であると思われる場合には管理者が注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の立場から、その時々に応じ選択の幅を広げられるよう、声かけや気持ちを考え行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、1人ひとりの体調や気持ちに配慮しながら、そのときの希望を取り入れ、個々の流れは多少違って、それぞれが上手く溶け合えるような時間の流れを作れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみは、本人の好みで支援している。化粧品の買い物などは職員と買いに出かける方もいる。2ヶ月に1度訪問理容に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなどは、利用者様にも手伝っていただいている。献立は、利用者様の希望を聞き取り入れ、食事を楽しみに思っただけよう努力している。	食事はほとんどの利用者が自力で食べることができる。献立は大まかに決めてあるが、利用者の希望や食材をいただいたりすると臨機に変更している。訪問調査時も家族から届いた大粒の柿を二人の利用者が皮むきをしていた。食事には利用者のレンジで漬けた漬物や煮物、和え物など職員の自慢の料理が並び、利用者も「美味しい、美味しい」と笑顔で食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1日には赤飯を炊き、健康を祈り、その月のスタートとしている。水分摂取には十分気をつけている。献立の栄養バランスと彩りを考慮して、健康面から、1人ひとりの食べ方を把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを行っている。就寝時には、義歯洗浄剤を使用している。また、口腔ケアの大切さを、研修報告や勉強会などで職員に伝えている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、促し、誘導を行いトイレで排泄できるよう支援している。それにより、脱オムツに移行できるように取り組んでいる。	布パンツ、紙パンツ、おむつ使用の方と多様であるが、利用者と家族の意向を聞き対応している。利用者の中には「紙パンツをはいていると、安心できるし温かい」との理由で使われている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に水分摂取量に気をつけている。食事面では、繊維質の多い野菜などを多くとるように努めている。また、足踏み運動や散歩など軽く身体を運動を毎日取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則は週2回の入浴を実施している。それ以外では、本人の希望や状況に合わせて、シャワー浴も行っている。入浴拒否のある方には、安心感を持ってもらえるよう、歌を歌ったり思い出話をしたりして、気持ちを楽にさせていただいている。	入浴は利用者の体調や希望を確認し支援している。入浴を拒まれる利用者もいるが気分転換を図り無理強いすることなく声掛け誘導を行っている。夏場はシャワー浴での対応もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量に配慮し、生活リズムを整えるようにしている。加齢とともに体力の落ちている方には、声かけし本人の意思に沿って休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はその都度、ご本人と名前を確認し、内服している。状態の変化時には、訪問看護、協力医療機関との連携が図れている。また、服薬管理表を作り記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、自然と役割ができ、体調を見ながら一緒に行くという充実感を味わっていただいている。また、利用者間でその日、何の歌を歌うのかと決めたり、散歩、体操等気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を感じられるよう、桜観賞、紅葉、祭りなど外出を支援している。天気の良い日には、散歩や外気浴をしに外に出て、季節を感じていただいている。また、本人の希望に応じ、ドライブや買い物など外出支援も行っている。	自力歩行、歩行器使用の方、車椅子の方がそれぞれ五分の一ほどおり、手引き歩行の方も若干名と利用者の状態は様々で、一同そろって出かけるのは難しく、天気の良い日には数人ずつに分かれて近隣の名所に出かけている。また、日常的には1階の玄関先に椅子を並べ、外気浴を楽しんでいる。	

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の中で、「洗濯をしてもらったお金を払わなくては」と訴える人もおり、ご家族に支払いをしていただいていると説明する場面も時々ある。可能な方には、所持していただき買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様からの希望があるときや、家の事を不安に思っている方など電話し、その時の状況に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活の音、季節の香り、目で楽しむことなどを、リビングや日常の生活の中に取り入れ工夫している。	食堂兼居間を囲むように各居室が配置されており、安否確認も直ぐできるような間取りになっている。居間の壁には利用者と職員で作ったモザイク画が何枚も飾られ華やかさを演出している。冬季には床暖房と空調で暖かく過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテレビ、ソファを置き、自由に使えるスペースを確保していて、それぞれ思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や写真など馴染みの物を持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	居室には思い思いに自宅で使っていた家具を持ち込み、落ち着いた暮らしとその人らしく過ごせるように配慮がされている。居室の床は毎朝職員が掃除をしており清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの心身状態を理解、把握し工夫するよう心がけている。混乱が続くような時は、その原因を職員一同で話し合い取り除けるよう環境の整備に努めている。		